

経済・金融フラッシュ

No.07-166 2008/3/6

米2月ISM総合指数は、製造業・非製造業とも 50 を下回る

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 主任研究員 土肥原 晋

TEL:03-3512-1835 E-mail:doihara@nli-research.co.jp

1、製造業指数(PMI)は 48.3 に低下の一方、非製造業指数(NMI)は 49.3 に回復

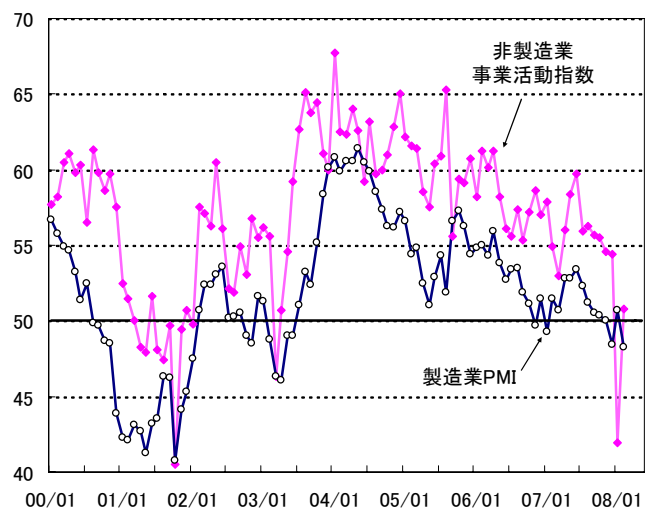
企業のセンチメントを示すISM(米供給管理協会)指数は、3月3日発表の2月製造業指数(PMI)が48.3(1月は50.7)と低下したが、市場予想の48.0を若干上回った。同指数が製造業の拡大・縮小の分かれ目とされる50を下回ったのは、昨年12月(48.4)以来であり、今回数値は2003年4月(46.1)以来の低水準となる。

一方、5日に発表された2月のISM非製造業事業活動指数は50.8と1月(41.9)から急回復した。また、1月より新設の総合指数(NMI: Non-Manufacturing Index)も、49.3

(1月44.6)と回復、市場予想(47.3)を上回った。1月事業活動指数はテロ事件直後の2001年10月(40.5)以来7年3ヵ月ぶりの低水準に落ち込み、2月数値が注目されていたが、ひとまず50を回復した形である。ただし、新設の総合指数がなお50を割り込んでおり、景況感としては弱めの判断が続いている。

今年に入ってから住宅不況の深刻化、エネルギーコストの上昇、サブプライム問題の拡大による信用不安や株価の急落、等の状況は改善されておらず、企業の景況感の低下は、製造業、非製造業を問わず、実体経済への影響が拡大してきたことを窺わせるものと言えよう。

(図表1) ISM各指数の推移(月別)



(資料) Institute for Supply Management、以下も同じ。

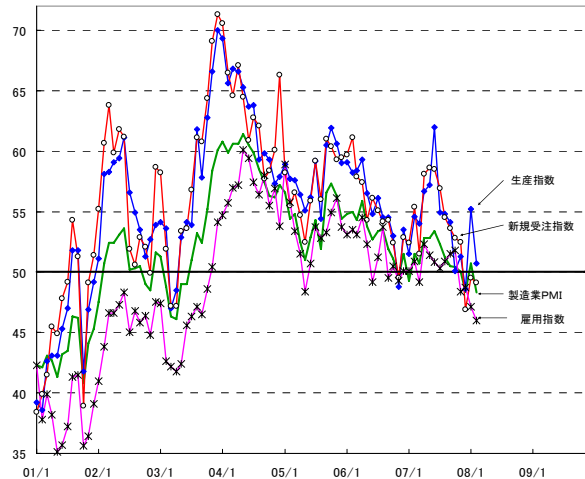
(各指数の内訳)

2、製造業指数では、生産指数を始めほとんどの指数が下落

ISM製造業指数について主要指数別に2月の動きを見ると、生産指数が50.7（前月55.2）、在庫指数が45.4（前月49.1）と低下が大きく、その他の指数もほとんど低下する半面、上昇は受注残高指数45.0（前月44.0）のみとなった。

生産指数の低下は、3ヵ月連続で受注指数が50を下回ったこと等を反映したと思われる。また、輸出指数は低下しながらも56.0（前月58.5）と底堅さを見せたが、輸入指数は47.5（前月52.5）と低下が大きく、内需の減速を反映したものと思われる。その他、価格指数は75.5とエネルギー価格上昇の影響でなお高水準にあり、雇用指数は4ヵ月連続で50を下回り、製造業の雇用調整の持続を窺わせる。

(図表2) ISM製造業指数の内訳と推移（月別）



(図表3) ISM製造業各指数と非製造業各指数の一覧

	製造業指数				非製造業指数			
	2月	1月	12月	1→2月 変化幅	2月	1月	12月	1→2月 変化幅
PMI/NMI	48.3	50.7	48.4	▲ 2.4	49.3	44.6	N/A	4.7
生産/事業活動	50.7	55.2	48.6	▲ 4.5	50.8	41.9	54.4	8.9
新規受注	49.1	49.5	46.9	▲ 0.4	49.6	43.5	53.9	6.1
雇用	46.0	47.1	48.7	▲ 1.1	46.9	43.9	51.8	3.0
入荷遅延	50.1	52.8	52.6	▲ 2.7	50	49	52.5	1.0
在庫	45.4	49.1	45.4	▲ 3.7	50	44.5	50.5	5.5
価格	75.5	76	68	▲ 0.5	67.9	70.7	71.5	▲ 2.8
受注残高	45.0	44	43	1.0	49.5	46	49	3.5
新規輸出受注	56.0	58.5	52.5	▲ 2.5	46.5	52	50	▲ 5.5
輸入	47.5	52.5	48	▲ 5.0	49	41.5	50.5	7.5
在庫センチメント	-	N/A	N/A	N/A	60.5	57	64.5	3.5
顧客在庫	49	49.5	51.5	▲ 0.5	N/A	N/A	N/A	N/A

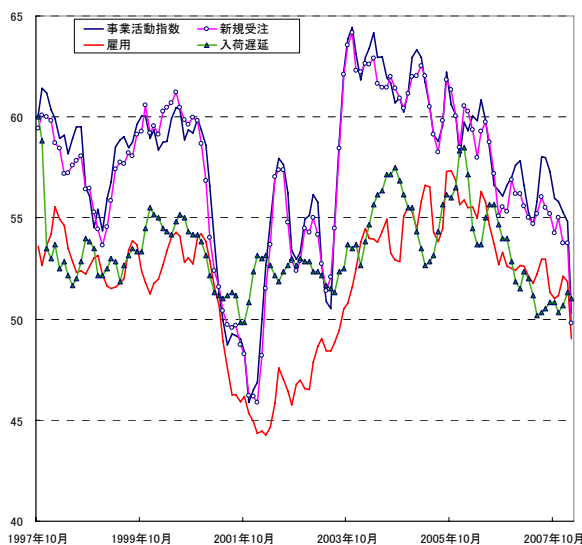
3、非製造業の各指数は、全般的に回復するも12月水準には及ばず

2月の非製造業指数は、1月の急低下の反動もあって、事業活動指数に限らずその他の指数も幅広く急速な回復を見せている。上昇幅が最も大きかったのは事業活動指数であるが、その連動性が高い新規受注指数は49.6（1月43.5）へと上昇、雇用指数も46.9（1月43.9）と上昇した。半面、在庫の上昇50.0（1月44.5）は、小売業や卸売業で事業活動の停滞が続いていると回答するなど、販売が改善していないことを窺わせる。

一方、2月に低下した指数を見ると、高水準が目立っていた仕入れ価格が67.9（前月70.7）と連月での下落を見せたほか、先月唯一の上昇となった新規輸出受注が46.5（1月52.0）と5.5ポイント低下し、下落幅が大きいのが注目される。

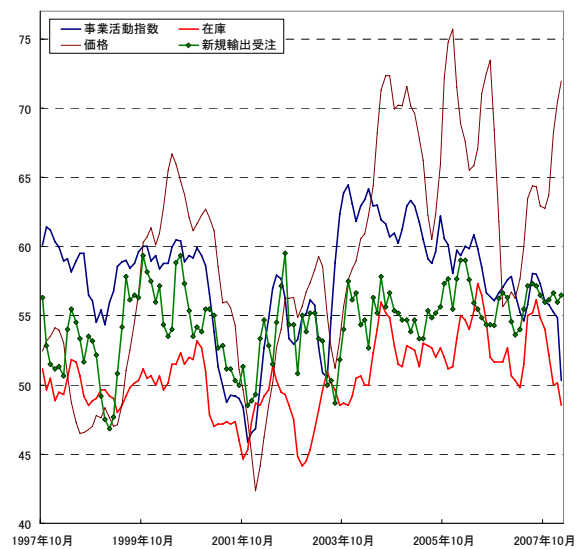
全般的には、事業活動が持ち直しを見せたもののなお12月水準に及ばず、エネルギー価格等の上昇を受けた仕入れ価格水準の高騰が続く中、底堅さを維持していた輸出に陰りが差したことなどが特徴的な動きと言えよう。

(図表4) ISM非製造業各指数の推移(1)



注：3ヵ月移動平均

(図表5) ISM非製造業各指数の推移(2)



注：3ヵ月移動平均

(お願い)本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)